

# 労働映画百選通信 No.04 2016.01

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F  
あけましておめでとうございます。2016年もよろしくおねがいします。

あなたのおすすめ「労働映画」は？

## 【労働映画についてのアンケート調査】実施しています！



労働映画 スペシャルサイト  
<http://hatarakubunka.net/>

いま、働くことをめぐる困難がますます高まる中で、世界の多くの国々で労働を主題にした多くの映画作品が製作され、人々の共感をあつめています。そして、映画と労働の世界との関わりについての歴史的関心もまた高まっています。日本映画も同様に労働に向き合ってきた長い歴史を持ち、現在も多くの労働映画が産み出されています。

そこで、私たちは日本の映画作品が、仕事と暮らしの実態、働く人たちの悩みと希望、あるいは働くことの意義と喜びをどのように描いてきたかを考察し、現在と未来に向けての教訓をくみとることをめざし、日本映画百年の歴史が産んだ代表的労働映画百本を選ぶ作業を進めています。

その活動の一環として、映画と労働の世界にご関心を持つ多くの方々に、これまでに見た日本の労働映画の中で、もっとも印象に残る作品、多くの人に見てほしいと思う作品についてお教えいただき、日本の代表的労働映画百本を選ぶにあたっての参考にしたいと考え、アンケート調査を実施することとなりました。

調査は無記名であり、ご記入いただいた内容については統計的に処理しますので、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用することは一切ございません。

つきましては、調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

2015年7月1日

NPO法人 働く文化ネット 労働映画百選選考委員会

## 【上映情報】労働映画列島！ 2016年1月～2月 ※【労働映画列島】で検索！

### ◎新作ロードショー

**白鯨との闘い** 《1月16日(土)から 東京・新宿ピカデリーほかで公開》

19世紀を舞台に、白い大型のマッコウクジラと捕鯨船の乗組員たちとの壮絶なバトルを描いたサバイバルドラマ。  
(2015年 アメリカ 監督/ロン・ハワード)

**火の山のマリア** 《2月13日(土)から 東京・岩波ホールで公開、全国順次公開予定》

活火山の麓に暮らす17歳の少女。貧しい両親は地主の嫁になることを望むが、彼女はコーヒー農園で働く男に惹かれていた…。マヤ民族の生活を通して、グアテマラの社会問題を描いたヒューマンドラマ。  
(2015年 グアテマラ、フランス 監督/ハイロ・ブスタマンテ)

**牡蠣工場** 《2月 東京・渋谷 シアターイメージフォーラムほかで公開、全国順次公開予定》

『選挙』『精神』などで知られる想田和弘の「観察映画」第6作。岡山・瀬戸内市牛窓にある牡蠣の加工場で働く人々を記録したドキュメンタリー。(2015年 日本 監督/想田和弘)

### ◎名画座・特集上映

【東京 京橋 フィルムセンター】1/16～2/28「キューバ映画特集」…怒りのキューバ/低開発の記憶/天国の晩餐/他

【東京 角川シネマ新宿】1/16～2/11「市川崑 光と影の仕草」…黒い十人の女/破戒/満員電車/私は二歳/他

【東京 早稲田松竹】1/30～2/5「サタジツ・レイ監督特集」…ビッグ・シティ/チャルラータ

【川崎 チネチッタ】1/23～29 チネチッタ名画座 第44回『生きる』(1952年/監督:黒澤明)

【秋田県民会館】1/30・31「あきたクラシックシネマ なつかしの喜劇」…おかしな奴/あゝ軍歌/喜劇・大安旅行/他

【大阪 九条 シネ・ヌーヴォ】1/30～3/11「市川崑 光と影の仕草」…暁の追跡/プーサン/満員電車/他

【広島市映像文化ライブラリー】1/20～24「PFFアワード・セレクション」…モーターズ/山守クリップ工場の辺り/他

【山口情報芸術センター】1/8～24「映画女優・宮下順子をトッた監督たち」…赫い髪の子/火まつり/牧野村物語/他

【福岡市総合図書館】2/3～3/6「韓国映画1934-1959 創造と開花」…漁火/授業料/ソウルの休日/他

【テーマ研究】#4 《農業・農村》を描いた作品 資料作成:清水浩之

日本の労働映画の歴史を辿るとき、縦軸には「時代」があり、横軸には様々な職業や仕事の形態、労働の意義や現場の課題など、多岐にわたる「テーマ」が広がっている。この欄は、テーマごとに関連作品を発掘していく試みである。

第4回は《農業・農村》を描いた作品を集めてみた。10年ほど前、九州の映画祭で上映作品探しのお手伝いをした時、主催者から「農村の明るい未来を描いた作品はありませんか？」とリクエストされ、返答に困ったことがあった。昭和30年代までは農村を舞台にしたドラマや記録映画が作られていたが、高度成長期以降は目立って少なくなったことが、下記のリストにも反映されている。しかし近年、映像のデジタル化により「大都会に頼らない」作品づくりが可能となったこともあり、若手作家が地元で根ざしたテーマを手掛けるようになってきた。今後、画期的な作品が出てくることを期待したい。

ジャンル:【劇】劇映画【記】記録映画【ア】アニメ【TV】テレビ番組/ソフト:【DVD】【VIDEO】/【NHK】各局の公開ライブラリーで閲覧可能【科学映像館】インターネットで無料配信中

【劇】美しき農夫の娘(1909) M・パター商会  
 【記】土地(1931) プロキノ 監督/高周吉 [DVD]  
 富山県大沢野村(現・富山市)の小作争議と、彼らとの共闘を模索する工場労働者の姿を描いたセミドキュメンタリー。  
 【劇】土(1939) 日活多摩川  
 監督/内田吐夢 出演/小杉勇、風見章子 [VIDEO]  
 長塚節の小説を映画化。小作農家の厳しい生活を、四季の移ろいの中でリアルに描く。  
 【記】雪国(1939) 芸術映画社 監督/石本統吉 [DVD]  
 積雪地方の農村経済とその対策を徹底的に追求する。山形県新庄市、新潟県十日町市などで撮影。  
 【劇】大日向村(1940) 東京発声 監督/豊田四郎  
 出演/河原崎長十郎、中村翫右衛門、杉村春子  
 長野県大日向村(現・佐久穂町)を舞台に強いられてきた農民たちが、満州に新天地を求めて移住する姿を描く。  
 【劇】馬(1941) 東宝＝映画科学研究所  
 監督/山本嘉次郎 出演/高峰秀子、藤原鶏太 [VIDEO]  
 長女の願いで馬を飼うことになった一家の日々を、一年かけて描いた大作。山形県新庄市、最上町などで撮影。  
 【記】腰のまがる話 婦人と農業協同組合(1949)  
 日本映画社 企画/農林省 監督/桑野茂、庵原周一  
 激しい肉体労働に明け暮れる農村婦人の生活改善を説く。  
 【記】芦沼(1954) 山映視覚教育研究所 監督/岡部久  
 新潟・阿賀野川と信濃川の河口地帯。水田に施された排水設備の改良を、それ以前の貧困と対照して描く。  
 【記】新しい米づくり(1955) 東京シネマ  
 企画/東北電力 監督/丸山章治 [科学映像館]  
 山形県米沢で、電気苗代を導入した米作りの一年を記録。  
 【記】ひとりの母の記録(1955) 岩波映画 監督/京極高英  
 信州伊那谷の養蚕農家の生活と経済問題を捉える。  
 【劇】米(1957) 東映東京  
 監督/今井正 出演/江原真二郎、中村雅子 [DVD]  
 霞ヶ浦の水郷地帯。農村に生きる若者たちの恋模様。  
 【記】おふくろのバス旅行(1957) 記録映画社  
 企画/全国視聴覚教育連盟 監督/菅家陳彦 [DVD]  
 宮城県瀬峰町(現・栗原市)。封建的な農村生活を改善しようと、青年たちが「夫婦揃ってのバス旅行」を実現させる。  
 【劇】荷車の歌(1959) 全農映/新東宝  
 監督/山本薩夫 出演/望月優子、三國連太郎 [DVD]  
 明治から戦後にかけて、広島の農村で力強く生きた女性の生涯。全国の農協婦人が3,200万円のカンパを提供。  
 【劇】草を刈る娘(1961) 日活 監督/西河克己  
 出演/吉永小百合、浜田光夫 [DVD]  
 石坂洋次郎の小説を2度目の映画化。津軽平野で秋に組織される草刈り隊。別々の村にいた男女の出会い。  
 【劇】乳房を抱く娘たち(1962) 全農映/大映  
 監督/山本薩夫 出演/中谷一郎、山本圭 [VIDEO]  
 貿易自由化や人口の流出で、各地の農村が生き延びる道を模索する中、酪農の協同化に取り組む青年たち。

【記】農業禍(1967) グループ現代 監督/小泉修吉  
 近代農業の要となった農業による公害の実態を、長野県南佐久地方での現状とともに追及する。[DVD]  
 【TV】和賀郡和賀町(1967) NHK 演出/工藤敏樹 [NHK]  
 岩手県和賀町(現・北上市)、高度成長期の農村の記録。  
 【記】日本の稲作 そのことと伝統(1974)  
 英映画社 企画/文化庁 監督/青山通春  
 稲作にまつわる行事や伝統を、全国各地で取材した労作。  
 【劇】同胞(はらから)(1975) 松竹  
 監督/山田洋次 出演/寺尾聰、倍賞千恵子 [DVD]  
 岩手県松尾村(現・八幡平市)の青年たちを描く群像劇。  
 【記】椿山 焼畑に生きる(1977)  
 グループ現代 監督/姫田忠義 [VIDEO]  
 高知県仁淀川町椿山で縄文期から続く焼畑耕作を記録。  
 【劇】遠雷(1981) ATG  
 監督/根岸吉太郎 出演/永島敏行、石田えり [DVD]  
 都市化の波に呑み込まれていく1980年代初頭の宇都宮を舞台にした青春映画。トマト栽培を営む青年の日常。  
 【劇】山田村ワルツ(1988) テンポラリーセンター/松竹  
 監督/金子修介 出演/天宮良 [VIDEO]  
 嫁不足に悩む農村青年の集団見合いを描いたコメディ。  
 【TV】破産 ある畜産農家の光と影(1988) 山形放送  
 山形県櫛形町(現・鶴岡市)で肉牛飼育を行う佐々木さん。農協からの融資が重い負債となり、遂に破産を決断する。  
 【ア】おもひでぼろぼろ(1991)  
 スタジオジブリ/東宝 監督/高畑勲 [DVD]  
 田舎に憧れる女性が、有機栽培に取り組む青年と出会う。  
 【TV】夏子の酒(1994) フジテレビ 演出/本間欧彦ほか  
 脚本 水橋文美江ほか 出演/和久井映見 [DVD]  
 尾瀬あきらのマンガをドラマ化。実家の造り酒屋を継いだ女性の奮闘とともに、日本の米作りや農業問題を描く。  
 【劇】ひかりのおと(2011) 陽光プロジェクト  
 監督/山崎樹一郎 出演/藤久善友  
 岡山県真庭市で農業を営む山崎の長編映画第1作。酪農家青年の葛藤と、未来へのささやかな希望を描く。  
 【記】よみがえりのレシピ(2011) 監督/渡辺智史  
 「在来作物」の復活に取り組む山形の農家と料理人たち。  
 【劇】人生、いろいろ(2012) C&I/ショウゲート  
 監督/御法川修 出演/吉行和子 [DVD]  
 徳島県上勝町での実話を映画化。おばあちゃんたちが山で採る葉っぱを都会に出荷し、一大ビジネスに成長する。  
 【劇】奇跡のリンゴ(2013) 東宝ほか  
 監督/中村義洋 出演/阿部サダヲ、菅野美穂 [DVD]  
 不可能と言われた無農薬リンゴの栽培に成功した、青森県弘前市の木村秋則さん。10年にわたる苦闘を映画化。  
 【記】天に栄える村(2013) 桜映画社 監督/原村政樹  
 「おいしい米」作りで定評のある福島県天栄村の人々が、原発事故で降り注いだ放射性物質に立ち向かう姿を追う。

\*このリストを引用する時には【労働映画百選より】と付記いただきますよう、お願いします。

【作品ガイド】『その場所に女ありて』 文:波多楽久

1962年/95分 製作/東宝 監督/鈴木英夫 脚本/升田商二・鈴木英夫 音楽/池野成  
 出演/司葉子 宝田明 山崎努 森光子 大塚道子 原知佐子 水野久美 浜村純 西村晃  
 《高度経済成長期の広告業界を舞台に、熾烈な競争社会を生き抜くキャリアウーマンの  
 姿を鮮やかに描いた傑作。営業担当として働くヒロインを司葉子がクールに好演している。  
 昭和三〇年代の銀座の風景もみもの。》2月17日～20日 東京・ラピュタ阿佐ヶ谷で上映

昭和のヨーコ先輩、男社会で丁々発止！50年早かった「女性活躍」ハードボイルド

この映画が作られた当時、東宝は森繁久彌の「社長」シリーズを筆頭に、日本のサラリー  
 マン社会を描いた作品を数多く送り出し、東宝のメインターゲットである都市部の観客に支  
 持されていた。サラリーマン予備軍ともいえる加山雄三の「若大将」シリーズ、植木等のアン  
 チ・サラリーマン＝「無責任男」も人気を博したが、サラリーマン社会における女性の存在を  
 描いた作品はあまり見当たらない。池田内閣の「所得倍増計画」を受けて活気づく広告業  
 界、その中で奔走する人々をリアルに描いたシナリオは、東宝の宣伝部にデザイナーと  
 して勤務していた升田商二が、社内の同人誌に投稿したもの。『非情都市』(1960)などの  
 モダンなサスペンス映画の名手として知られた鈴木英夫監督がドライなタッチで演出した  
 結果、「ビジネス・ハードボイルド」と呼びたくなる作品が出来上がった。

当時28歳の司葉子が演じる主人公・律子は、銀座にある広告代理店の営業部員。製薬  
 会社の新聞広告受注を巡って、ライバル会社の坂井(宝田明)と対決する。会社の命令  
 通りに「ないものを売り歩く」広告屋稼業、その虚しさを知る者同士の共感が、二人の男女  
 を接近させるのだが……。お局様タイプストや金貸し姉さんなど、女性社員のキャラクター  
 には愛情がこめられているのに対して、男性側は出世者のデザイナー(山崎努)、同僚  
 を裏切るディレクター(浜村純)など、「いいひと」はひとりも出てこないのがいっそ清々しい。  
 「女であること」を一切持ち出さず、正攻法で仕事をしてきた優等生・律子。取引先から持ち  
 込まれたお見合い話も、微笑とともにスルーしなくてはならない。はじめて芽生えた「女としての感情」を利用した相手に  
 も、「こんど街で会ったら、お酒でも飲みましょう」と挨拶できる律子は、紛れもなくハードボイルドの世界の住人なのだ。



【労働映画のスターたち】第4回「真木よう子」 文:百永良武

いま、多くの若い女性が憧れる女優さん。彼女の髪型やファッションは日本全国(いや、東アジア  
 全域か)の女性に影響を及ぼし、スクリーンやテレビのモニター越しに、彼女のように生きたい、  
 働いてみたいという思いを寄せられる存在。NHK大河ドラマ『龍馬伝』(2010)で、坂本龍馬の妻・  
 おりょう役を演じたことから一気に知名度が上がったが、それ以前にも映画『バッチギ!』(2005/  
 井筒和幸)やドラマ『SP 警視庁警備部警護課第四係』(2007)などで、男性に負けず劣らず気の  
 強い「アネゴ」系のキャラクターを演じ、注目されていた。ブレイク後は役柄の幅も更に広がり、  
 男性から見て「オンナっぽい」キャラから、女性から見ても「オトこらしい」キャラまで演じられる貴重  
 な存在に成長している。男子も女子も憧れる《ヨーコ先輩》、そんな彼女の出演歴を「労働映画」  
 の視点から辿ってみましょう。

1982年、千葉県出身。兄と2人の弟に囲まれた子供時代だったそうで、「オトこらしさ」のルーツ  
 はここにあるのかも知れない。中学卒業後、仲代達矢が主宰する俳優養成所・無名塾に合格し、  
 女優としての活動を始める。2001年から数多くの映画・テレビに出演。クールな存在感とナチュラルな演技で、  
 端役から主人公の友人・同僚役へと着実にステップアップを続けていく。そして  
 2006年、映画『ゆるる』(監督/西川美和)で主人公の元恋人役を演じ、「山路ふみ子映画賞」  
 新人女優賞を受賞した。

その後は、サバサバした雰囲気とハスキーな声を持ち味として、ドラマ『SP』、『MOZU』(2014)  
 などでの警察官役、ドラマ『カレ、夫、男友達』(2011)、映画『すーちゃん まいちゃん さわこさん』  
 (2013/御法川修)などでのキャリアウーマン役を得意とする一方、映画『さよなら溪谷』(2013/  
 大森立嗣)、ドラマ『最高の離婚』(2013)などでの「色っぽいお姉さん」や、ドラマ『遅咲きのヒマワリ  
 』(2012)の新米医師、映画『そして父になる』(2013/是枝裕和)でのしっか子者の母親まで、その  
 役柄は従来の男女の境界を超えて広がっていく。2008年にはテレビ東京の深夜ドラマ『週刊真木  
 よう子』で、毎週違う人生を歩む主人公12人をきちんと演じ分けてみせた(ちなみに、ブリッ子を  
 演じると「女性が嫌いな女性キャラ」で知られるさとう珠緒さんに似ることも判明)。

2015年のドラマ『問題のあるレストラン』は、「ただ、いい仕事がしたい」と願う主人公が、セクハラ・  
 パワハラで職場を支配しようとする男たちに叛旗を翻し、同様に女として社会の壁にぶつかって  
 いた“七人の侍”を集めてレストランを起業する痛快な「革命」物語。もはや志村喬の役どころに  
 到達したヨーコ先輩(筆者より歳下ですが印象としては「先輩」)、優しさと凛々しさを兼ね備え、  
 男女の間の「壁崩壊」を体現する存在として、これからも活躍し続けていただきたいです。



遅咲きのヒマワリ (2012)



そして父になる (2013)



問題のあるレストラン (2015)

【レポート】第24回 労働映画鑑賞会

2015年12月10日(木)「子どもを見守る地域の絆」

10～12月期は、「伴を慕う心、連帯のかたち」を統一テーマにプログラムを組みました。

上映作品 **ボタ山の絵日記** 1957年/39分 監督/徳永瑞夫  
 筑豊の炭鉱地帯で暮らす生活困窮児たちを描いたセミ・ドキュメンタリー作品。筑豊炭鉱の労働組合、教育委員会、福祉団体など、地域をあげた協力体制のもとに制作された。

今回の作品は、製作・配給元の共同映画株式会社のご協力により、倉庫に保管されていた16ミリフィルムを働く文化ネットが修復し、デジタル化したものを上映しました。

上映後には、連合総研主任研究員の麻生裕子さんからコメントをいただき、会場の皆様との意見交換を行いました。

＜麻生さんによるコメント＞

- ・この映画では長期欠席児童と貧困を描いているが、そのような貧困の連鎖は2000年代前半に再び表面化し、今なお問題となっている。
- ・捕れたザリガニを友だちの家族の人数によって分配するシーンがあったが、自分たちの世代だったら「自分が捕ったら自分のもの」となる。このギャップはどこから来るのか、この平等主義は暮らしの中で自然と身に着いたものなのか。
- ・子供を学校に戻すため、行政だけではなく労働組合をはじめ市民団体、教育関係者、警察など、地域全体で協力して取り組んでいる様子が見て取れる。当時、組合もメンバーシップを超えて外に広がる運動をしていたのがよくわかった。地域の中で有力な組合が、現代においてもその役割を果たしてほしい。

＜参加者の感想＞

- ・貧困の中でも人間性を失わない子供たちの世界に感動した。こういったことに私たちは希望を感じるのであろう。
- ・子供たちの表情は明るかった。それは彼らが孤立していないからであろう。
- ・今の組合活動には“文化”はあるのだろうか。今の運動に“文化”が加われれば、もっと連帯して広がっていくのでは。
- ・この映画で地域一体となりやろうとした「連帯する」こと、今の時代も答えはそこにしかないのでは。
- ・この映画に描かれているような地域の絆は、かつて日本全国にあった。壊してしまったのは、私たちの世代ではないだろうか。「古臭い」、「面倒くさい」と否定してきたもの。それが今になり孤独死などといったしっぺ返しとなって帰ってきているのではないか。なくしたものはなんだったのか、考えさせられた。



麻生裕子さん

【次回の労働映画鑑賞会】

働く文化ネットでは、毎月第2木曜日に労働映画鑑賞会を開催しています。お気軽にご参加ください。

場所:連合会館 2階 201会議室 (地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)  
 参加費:無料(事前申込不要、どなたでも参加できます)

第25回「交通安全の最前線にて」

日時:2016年2月4日(木)18:30～(18:00開場)

場所:連合会館 2階 201会議室

※1月はお休みです。2月は第2木曜日が休日なので第1木曜日夜に開催します。



上映作品■

**ドキュメント 路上**

1964年/54分 監督/土本典昭

内容■

1963年、オリンピックに向けて都市整備工事が急ピッチで進む東京では、突貫工事のために道路事情は一挙に悪化していた。そうした状況下で働くタクシー運転労働者の、違反や危険なしには働けない労働実態に鋭く迫る。

この作品は、交通安全映画として警察庁に買い上げられ、活用されることになっていたが、完成後未公開のままとなった。